

2. 政策科学部 平成14年度—平成22年度

金谷泰宏

健康危機管理研究部

I. はじめに

政策科学部は、国立公衆衛生院と国立医療・病院管理研究所との統合の際に、医療政策研究部の流れを継承する形で新たに設置された研究部門であり、本稿においては、政策科学部の発足から今日に至るまでの研究部の組織及び研究成果について報告する。

II. 概要

政策科学部の所掌事務は、厚生労働省組織規則（平成十三年一月六日厚生労働省令第一号）第五百四十六条において、「保健医療等に関する計画の策定その他の政策立案及びこれに資する調査及び分析の手法に係るものをつかさどる。」とされ、保健医療事業等に関係する職員その他これに類する者の養成及び訓練並びに調査研究に取り組んできた。

平成14年4月における政策科学部の職員は、長谷川敏彦（部長）、相馬孝博（医療安全室長）、星野桂子（計画科学室長）の計3名から始まり、16年4月に石川雅彦氏が主任研究官として着任した。その後、星野室長（平成15年12月）および相馬室長（平成16年3月）の異動に伴い、石川主任研究官が平成17年4月に安全科学室長に就任した。同年4月に、種田憲一郎氏と児玉知子氏が、それぞれ主任研究官として着任した。長谷川部長の退職に伴い、平成18年12月に石川室長が部長に就任し、合わせて種田主任研究官が安全科学室長に就任することとなった。平成19年4月には児玉主任研究官が計画科学室長となり、平成20年には新たに主任研究官として玉置洋氏、平成21年に富塚太郎氏及び荻野大助氏がそれぞれ着任した。平成21年4月に石川部長が退職され、同年10月に防衛省より金谷泰宏が部長として着任することとなった。

III. 研究

政策科学部では、「保健医療福祉政策の立案をするための調査方法、計画策定法、政策立案法に関する調査研究」、「保健医療福祉サービスに関する安全政策に関する調査研究」及び「政策や医療計画等の行政に関する計画の策定手法、計画そのものに関する調査研究」を中心に取り組んできたところである。

以下では、平成14年度から22年度の間に当研究部で実施された主な研究テーマについて、それぞれ概略を述べる。
<平成14年～16年度>

従来の「病院経営」、「国際保健」、「公衆衛生」、「医療システム」の4領域における研究成果をまとめつつ、分野横断的な研究として、「保健医療サービス研究（Health Service Research）、疾病管理（Disease Management）、システム評価（Evaluation Science）さらにこれを統合した健康変革（Health Sector Reform）に関する研究を推進するとともに保健医療分野における政策工学（Policy Engineering）手法を開発することを研究戦略とした。また、医療システムのあり方として、プライマリケア、医療連携、医療資源としての人材（Health Manpower）さらには生涯疫学（Life Course Approach）による疫学的な分析や女性管理職の死亡分析などを推進した。具体的な研究課題は以下のとおりである。

1) 医療機能の分化と連携を目指した医療計画のあり方に関する研究（平成13～15年度）

わが国の医療供給体制は、外来と入院、一次と二次・三次機能、長期と急性期、医療機能と福祉機能、薬局と医療機関の機能が未分化である。政府の役割や医療計画という行政手法を用いていかに機能の分化と連携を推進するかを明らかにする。

2) 健康日本21計画の改善と改訂に関する研究（平成14年度～16年度）

健康日本21計画の中間評価を行い、計画の改訂と改善の提案を行う。

3) 病院内総合的患者安全マネジメントシステムの構築に関する研究（平成14～16年度）

総合的な患者安全システムの構築に向けた医療事故予防の概念や方法論を明らかにする。

4) WHO保健システム評価手法の妥当性及びその活用に関する研究（平成14～15年度）

WHOの提案する保健医療システム評価について、わが国の実情に照らして再評価を行う。

5) 医療の質と外科手術の技術集積性に関する研究（平成14～16年度）

本研究は、医療の質を定義し、次に質のばらつきを分析するものであり、具体的には手術件数と死亡率などの相関分析を行うもの。

<平成17～19年度>

「医療システム分析・評価」と「医療安全管理等に関する調査研究」の2つの基盤研究を中心に医療構造改革の推

V. 各部活動報告

進ならびに病院管理のコンピテンシーを念頭においた研究を推進した。

- 1) 医療システム関連の研究（平成17～19年度）
 - ①医療システム分析・評価事業
 - ②病院研究調査
- 2) 医療安全管理等に関する調査研究（平成17～19年度）
- 3) コア・コンピテンシー概念に基づく医学部新医療安全教育の研究（平成17年度）
- 4) 無床診療所等における医療安全管理体制構築に関する研究（平成18～20年度）
- 5) 卒前教育から生涯教育を通じた医師教育のあり方に関する研究（平成17～19年度）

<平成20～22年度>

公衆衛生の新たな潮流（New Public Health）として急速に重要性が高まっている感染症対策、災害・救急医療対策等の健康危機管理体制の構築に関する情報収集・分析及び人工知能を用いた政策評価に関する研究に新たに開始した。また、健康危機管理体制の土台となる地域医療の連携と情報の共有化を図るための医療情報基盤に関する研究に着手することとした。

- 1) 健康危機管理に関する研究
 - ①バイオテロ以外のCBRNEテロ対策に対する効果的な対策の検証と国際連携ネットワークの活用に関する研究（平成22年度～）
 - ②バイオテロのリスク評価、数理モデルの開発とガイドラインの整備、臨時予防接種の円滑な実施できる体制についての検討（平成22年度～）
 - ③細胞培養弱毒性痘そうワクチンの安全性、有効性及び生産性に関する研究（平成22年度～）
 - ④新型インフルエンザワクチンに関する政策決定過程の研究（平成22年度）
- 2) 難病対策に関する研究
 - ①今後の難病対策のあり方に関する研究（平成22年度～）
 - ②プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究（平成22年度～）
- 3) 医療安全に関する研究
 - ①医療安全推進に必須の組織文化（安全文化）の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用（平成19～20年度）
 - ②診療行為に関連した死亡の調査分析に従事する者の育成及び資質向上のための手法に関する研究（平成21～22年度）
 - ③在宅医療における医療安全に関する研究（平成20年度）
 - ④無床診療所等における医療安全管理体制構築に関する研究（平成20年度）
 - ⑤行政処分を受けた医療従事者の再教育に関する研究（平成20年度）

- ⑥医療従事者の再教育および医療事故に関わった医療従事者への支援に関する研究（平成21年度）
 - ⑦医師等の再教育研修に関する研究（平成22年度）
 - ⑧情報の構造化による医療事故・ヒヤリハット情報の利活用に関する研究（平成22年度）
- 4) その他の研究
 - ①ユーザー視点での保健医療の質に関する指標の妥当性と国際比較可能性に関する研究（平成20年度）
 - ②国際医療交流（外国人患者の受け入れ）への対応に関する研究（平成22年度）
 - ③自治体におけるがん対策の現状分析とマネジメントシステムの構築支援に関する研究（平成20年度）
 - ④都道府県がん対策推進計画におけるアクションプランの実施プロセス評価およびサポート体制に関する研究（平成21～22年度）

IV. 研修

政策科学部は、医療関係者の職責に応じた医療機関の管理・運営に関する研修を通じて個々の医療機関の経営の安定化をはかり、ひいては地域医療の維持に大きく貢献してきた。また、医療安全に関する研修は、医療の質の向上に貢献してきた。しかしながら、民間でできることは、民間に委ねるとの方針の下、平成20年度以降は、個々の医療関係者を対象とした研修から、地域医療全体の安定を目指した研修への切り替えを進めてきた。以下にその概略を示す。

1. 専門課程・研究課程
 - (1) 平成19年度以前における研修
 - ①安全管理研究科
 - (2) 平成20年度以降における研修
 - ①医療安全管理専攻科（平成20年度～）
 - ②専門課程Ⅱ（健康危機管理分野）（平成22年度～）
2. 短期研修
 - (1) 平成19年度以前における研修
 - ①病院長コース（4日間 2回/年）
 - ②看護部長コース（4日間 2回/年）
 - ③薬剤部長コース（3日間 1回/年）
 - ④医療安全リーダーシップ研修（2日間 2回/年）
 - ⑤医療安全教育指導者養成研修（3日間 1回/年）
 - ⑥診療情報管理セミナー（4日間 1回/年）
 - ⑦インシデント・アクシデント研修（3日間 1回/年）
 - ⑧CSワークショップ（2日間 1回/年）
 - ⑨JICA病院管理研修（4日間 1回/年）
 - ⑩医師臨床研修制度・研修管理委員会・委員長研修（2日間 4回/年）
 - (2) 平成20年度以降における研修
 - ①病院長研修（平成20～21年度）
 - ②看護部長研修（平成20～21年度）
 - ③地域医療連携マネジメント研修（①②を統合し平成

2. 政策科学部

22年度より開始)

- ④医療安全リーダーシップ研修 (平成20～22年度)
- ⑤医療安全管理者研修 (平成20～22年度)
- ⑥安全文化を醸成するカリキュラムデザイン研修 (平成20～22年度)
- ⑦看護基礎教育・臨床ジョイント研修 (平成20～21年度)
- ⑧医療安全管理者フォローアップ研修 (平成20～21年度)
- ⑨病院経営に資する診療情報マネジメント研修 (平成20～21年度)
- ⑩総合医療政策研修 (平成20年度)

3. 国際協力研修

病院管理技術とヘルスサービスマネジメント研修 (Hospital Administration & Health Services Management) (平成20～22年度)

V. おわりに

政策科学部は、科学院発足以来、わが国の保健医療行政の政策立案に資する情報の収集と政策評価に必要な分析手法の確立に努めてきた。特に、これらの調査研究で培った成果については、医療関係者に対する研修を通じて普及させてきたところである。また、近年増大しつつある感染症、自然災害等の脅威に対応するため、平成21年度より地域における健康危機管理体制の構築に向けた調査研究と教育訓練に取り組みつとあるところである。

VI. 原著論文

平成14年度から今日まで、政策科学部より国際雑誌に掲載された主な論文の一覧を示す。

- [1] Hasegawa T, Hori Y, Sakamaki H, Suzuki K. Meta-analysis on the therapeutic state of hypertensive population in Japan: focusing on the impact of new diagnostic criteria of Japanese Guideline for the Management of Hypertension 2000. *J Epidemiol.* 2002; 12 (2): 112-9.
- [2] Ogawa S, Hasegawa T, Carrin G, Kawabata K. Scaling up community health insurance: Japan's experience with the 19th century Jyorei scheme. *Health Policy and Planning.* 2003; 18 (3): 270-8.
- [3] Tamaki Y, Nomura Y, Katsumura S, Okada A, Yamada H, Tsuge S, Kadoma Y, Hanada N. Construction of a dental caries prediction model by data mining. *J Oral Sci.* 2009; 51 (1): 61-8.
- [4] Kadoma Y and Tamaki Y. Bonding durability against water of a fluorine-containing resin for precious metal alloys: *Dent Mater J.* 2009; 28 (5): 642-8.
- [5] Kubota K, Kuroha K, Kawata K, Komiya E, Tamaki Y, Uematsu M, Arakawa H. Fluoride Intake from Tea in Japanese Infants. *Int J Oral Health.* 2009; 5: 7-15. 2009; *Int J Oral Health* 5, 7-15.
- [6] Yamada T, Ryo K, Tai Y, Tamaki Y, Inoue H, Mishima K, Tsubota K, Saito I. Evaluation of therapeutic effects of astaxanthin on impairments in salivary secretion. *J. Clin. Biochem. Nutr.* 2010; 47: 130-7.
- [7] Kasuga Y, Ichikawa M, Deguchi H, Kanatani Y. A simulation model for analyzing the night-time emergency health care system in Japan. *Development in Business Simulation and Experimental Learning.* 2011; 38: 171-81.
- [8] Fujita M, Sato H, Kaku K, Tokuno S, Kanatani Y, Suzuki S, Shinomiya N. Airport quarantine inspection, follow-up observation, and the prevention of pandemic influenza. *Aviat Space Environ Med.* 2011; 82 (8): 782-9.
- [9] Johnson BF, Kanatani Y, Fujii T, Saito T, Yokote H, Smith GL. Serological responses in humans to the smallpox vaccine LC16m8. *J Gen Virol.* 2011; 92: 2405-10.
- [10] Ryo K, Ito A, Takatori R, Tai Y, Arikawa K, Seido T, Yamada T, Shinpo K, Tamaki Y, Fujii K, Yamamoto Y, Saito I. Effects of Coenzyme Q10 on Salivary Secretion: *Clinical Biochemistry.* 2011; 44, 669-74.